

8. 大阪市立開平小学校

(旧集英小学校・旧愛日小学校【現存せず】)

date

住所 : 大阪府中央区今橋1-5-7
建築年: 平成4年(1992年)



history

大阪市立愛日小学校と旧大阪市立集英小学校が、平成2年(1990年)に統合され、平成4年(1992年)、集英小学校の跡地に開平小学校として新たな校舎が建設された。

建設に際しては、旧愛日小学校と旧集英小学校の建築部材の一部が転用されている。

その多くは、地下1階の開平ホール、記念室、ギャラリーなどに取り付けられた。

ステンドグラスについては、地下1階の開平ホール、記念室の他に、1-地下1階階段踊り場、1階玄関ホール、2階校長室、3-4階階段踊り場、3,4階のワークスペース中庭側の窓などに再利用されている。



左: 旧集英小学校全景図
(開平小学校蔵)
中: 旧愛日小学校全景図
(開平小学校蔵)
右: 旧愛日小学校の正面玄関
(「愛日小学校総誌」平成2年
より/欄間窓にステンドグラ
が見える)

建物の特徴



左: 開平小学校校門(旧集英小学校の門柱を模した形になっている)
右: 旧集英小学校から転用された人造石レリーフ
(本にペンと竣工年1927が浮彫りされている)

旧愛日小学校と旧集英小学校の建築部材の一部が、外観や内装に用いられている他、現在の門柱は旧集英小学校のデザインを模した形となっており、両小学校の歴史に配慮した建物といえる。

製作：製作者、製作所不明
設置時期：平成4年(新築時)

設置場所(現在)：

1階玄関欄間窓	/	1階校庭側入口欄間窓	/
3階廊下中庭側窓の欄間窓	/	2階校長室と地階記念室にある衝立	/
1-地下1階階段踊り場 西壁の2小窓	/	地下1階開平ホールと記念室の欄間窓	/
3、4階ワークスペース中庭側窓上部の欄間窓	/		
3-4階階段踊り場	/		
地下1階開平ホール入口扉の面取り透明板ガラス	/		

design & point

*1階玄関欄間窓

(旧愛日小学校の正面玄関欄間窓)

ステンドグラスに限っては、旧愛日小学校から移されたものはこの玄関欄間窓のみと思われる。

*1階校庭側入口欄間窓

(旧集英小学校の講堂正面扉上部欄間窓)

小さな八稜星が中心にある正方形を主体とした幾何学文様が横一対に並び、黄色、コバルト青色、緑色、乳白色で構成されている。八稜星の中心に少量の赤色がアクセントとして効果的に使われている。

*3階廊下中庭側窓の欄間窓

(旧集英小学校の講堂演壇の両脇上部欄間窓)

1階校庭側入口、欄間窓のステンドグラスとほぼ同じ図柄を横に引き伸ばした構成。

左端の黄色ガラスの一部に割れを補う鉛線が入れている他は保存状態が極めて良好で、新しいガラスの補充もなくオリジナルの輝きを保っている。

*2階校長室と地階記念室にある衝立

(旧集英小学校講堂の側面窓上部と推定)

4ピースに分割されたステンドグラス・パネルは、元の形状であるスチールサッシにはめられたまま、黒檀製の衝立(ついたて)に改装されている。同じ大きさ・図柄のパネルが2枚あり、一対の衝立に仕立てられ、「寄贈集友会 平成19年4月吉日」と書かれたプレートが付けられている。



上:1階玄関欄間窓
下:1階校庭側入口欄間窓



上:3階廊下中庭側の窓の欄間窓
下:2階校長室と地階記念室にある衝立

stained glass

design & point

*1-地下1階階段踊り場

(旧集英小学校講堂の正面扉両脇の窓欄間)

元は現在のものをそれぞれ横位置に二連で、欄間窓として設置されていた。また、ステンドグラスに使われている板ガラスは、すべて外国製と推定される。

*地下1階開平ホールと記念室の欄間窓

いくつかの小窓で構成された大窓の上部欄間には、中央に八稜星がある正方形をしたステンドグラス・パネルが、それぞれ二連で取り付けられている。

色彩は押さえられ、無色透明の型板ガラス2種と乳白色ガラスとで構成されているために、外光を多く室内に取り入れることができる。

*3、4階ワークスペース中庭側窓上部の欄間窓

欄間部分を縦に三分割し、その中央部分にのみステンドグラスが入れている。その両脇の半透明板ガラスは、新しいものである。



上:1-地下1階階段踊り場の西壁2小



下:地下1階開平ホールと記念室の欄



3、4階ワークスペース中庭側窓上部の欄

*3-4階階段踊り場

唯一学校外部から見るためか、割れのないガラスが使われている。

無色透明ガラスがはめられた、光あふれる階段室の高い位置にあるために、階段から見上げると大きな二つ星が空に輝いているように見える。

(全体について)

旧愛日小学校と旧集英小学校の両校の建築当時の時代性からか、どちらも幾何学的な図柄のアール・デコのデザインでまとめられている。

旧愛日小学校のものは、円と正方形を基調に水平垂直線で構成されたデザインとなっていて、多色使いであるが落ち着いた色調を持っている。

旧集英小学校のものは、対角線軸でふった正方形を基調にした45度の傾きをもった斜線と2枚の正方形を重ねずらしてできる八稜星を組み合わせ、水平垂直線で引き締めたデザインをとっている。

使用されているガラスは、ほとんどが透明度の高いキャセドラルガラスであり、一部に乳白色オパールセントガラスが使われている。



上 :3、4階階段踊り場
下 :地下1階開平ホール入口扉の面取り透明ガラス

9. 生駒ビルディング（生駒時計店）



date

住所：
大阪府中央区平野町2-2-12

建築年：
昭和5年(1930)

設計：
宗兵蔵(宗建築事務所)
基本設計 大倉三郎
実施設計 脇永一雄

施工：
大林組

備考：
国登録有形文化財・大阪市指定景観形成物
指定

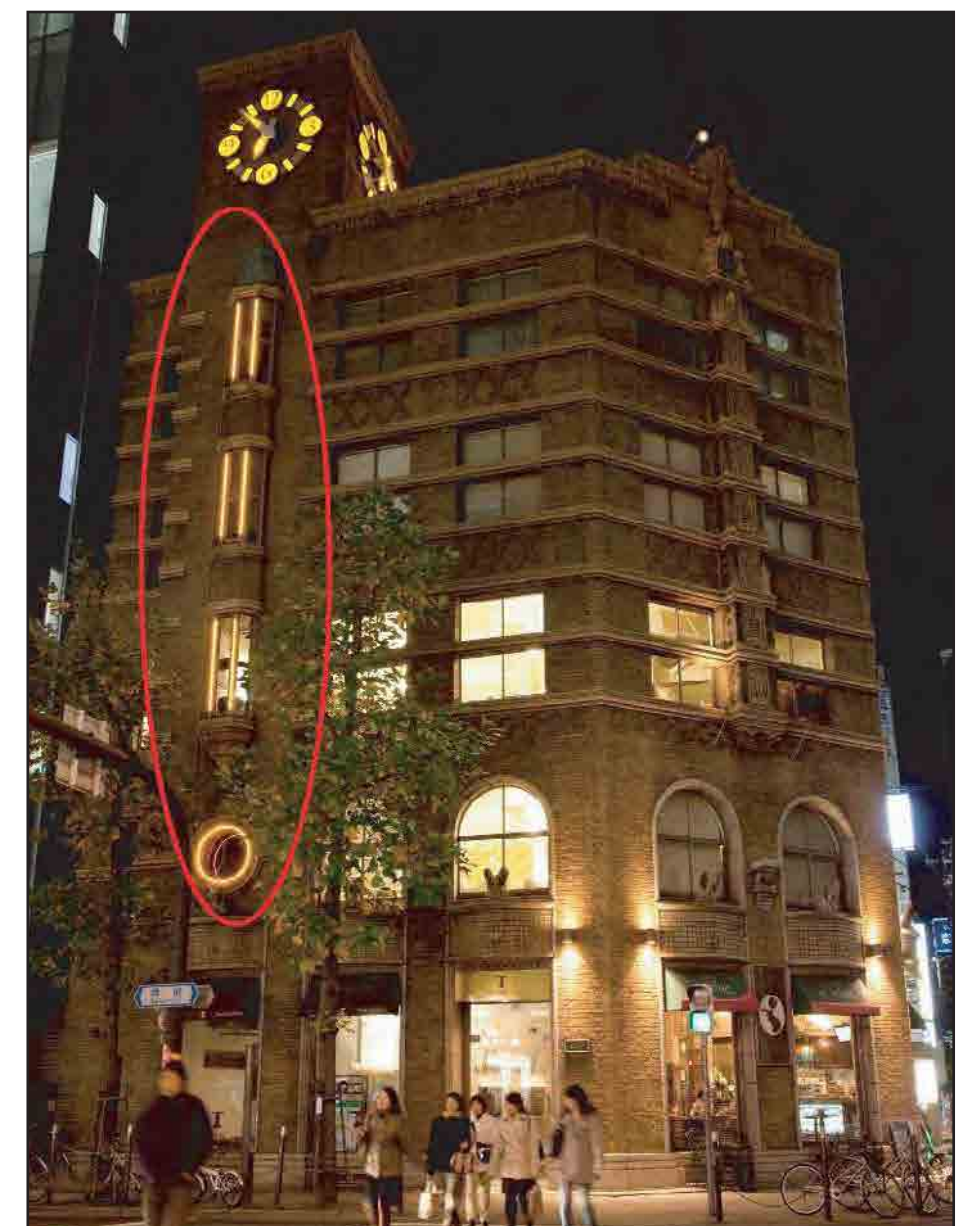
history

生駒時計店は、明治3年(1870)高麗橋5丁目(現在の御堂筋淀屋橋)に「大阪屋権七・大権堂」の商号にて創業した。昭和の初め、御堂筋の拡幅と地下鉄工事のために立ち退くこととなり、堺筋と平野町通の角地に新築した建物が現在の生駒ビルディングである。現在、1階の一角はカフェ・バール「イルバール」が入り、1～5階はレンタルオフィス・スペース等として利用されている。

建物の特徴

スクラッチタイル(手掻きの縦縞模様のタイル)とテラコッタ(素焼きの陶片)を活用したアールデコ調の建物。現存する内部の照明器具や木製の装飾パネルもアール・デコのデザインとなっており、統一感がある。

平成21年度に大阪市HOPEゾーン事業まちなみ修景補助制度により、時計塔の文字盤と針の夜間装飾が復元され、ビル自体を大きな振り子時計に見立てたユニークな夜間演出がなされている。



左上 : 北東角2階窓周りの装飾
外壁はスクラッチタイルとテラコッタが効果的に使われており、華やかな印象を与える

左下 : 機械式時計時代の時計塔(写真は昭和6年)

右 : まちなみ修景整備実施後の夜間景観
時計の下部が巨大な振り子時計のデザインとなっている

製作：製作者、製作所不明

設置時期：昭和5年(建築時)

設置場所(現在)：*建築当時のステンドグラス・パネルがすべて残存している

・1階店舗 西壁エレベーター室横 半円アーチ形小窓(Gはオリジナル。Iは1991年の店舗改装の際に復元・設置)

・1階～2階表階段室の踊り場西壁 2窓(2002年の耐震補強・ビル用途変更工事の際、ショーケースから窓へ移動。(ステンド自体はオリジナル))

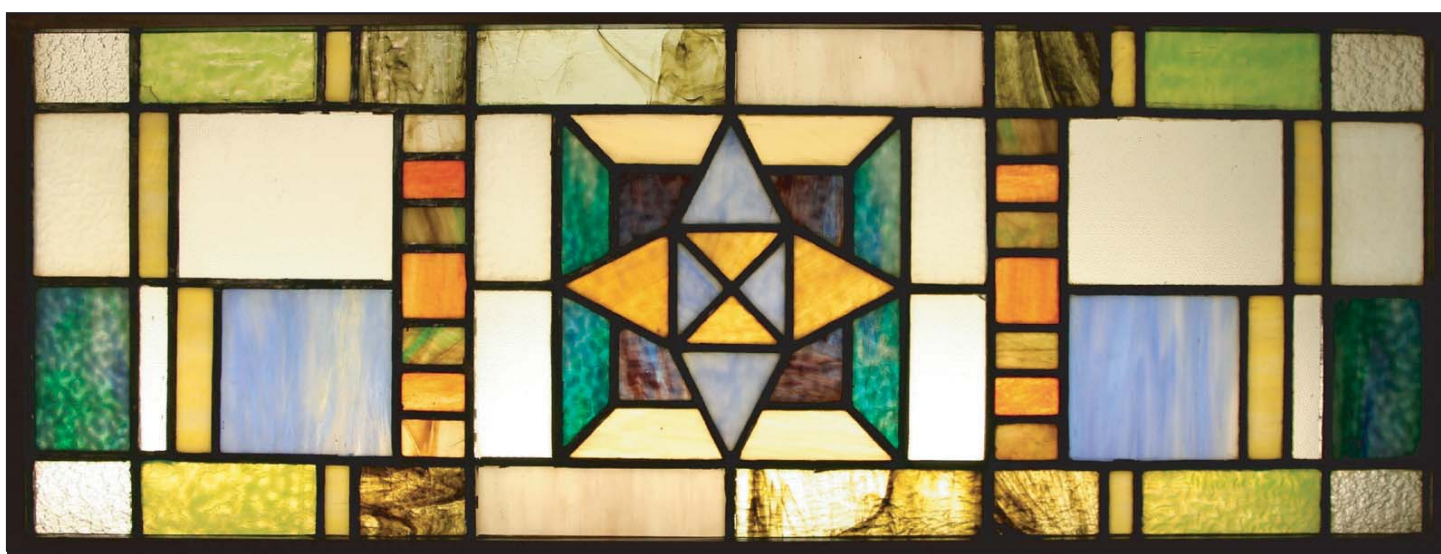
・木枠にはめられた星のないステンドグラス(1991年の1階改装時に元の位置から外され保管か)

・屋上塔屋倉庫に保管されていたステンドグラス(1991年の1階改装時に取り外され保管か)

呼び名(所有者からのヒアリングによる)：

星形 ・ 陳列窓ステンドグラス ・ 長角 ・ 正方形 ・ 開き戸、イニシャルG,I

design & point



*かつて1階陳列窓欄間に入っていたステンドグラスは、四稜星を中心に幾何学的な文様がすべて直線で構成されている。

色彩は、青、緑、白、黄色を主に、アクセントしてオレンジ色が大変効果的に使われ、多色使いの華やかなアール・デコのデザインが反映されている。

*1階西壁の半円アーチ形小窓のステンドグラスも、アーチの形に合わせて曲線が使われているが、イニシャルのGを中心に幾何学的な文様で構成。

上段：中央部に四稜星がある中タイプのステンドグラス・パネル(34×92cm)
現在は、1階から2階に上がる階段の第2の踊り場窓に設置
下段左：1階から2階に上がる階段の第1の踊り場窓のステンドグラス
正方形で星のないステンドグラス・パネル(34×34cm)8枚で構成
下段右：1階西壁エレベーター室横の二連の半円アーチ形小窓
GとIは初代社長生駒権七のイニシャルと想定される Gのみオリジナル

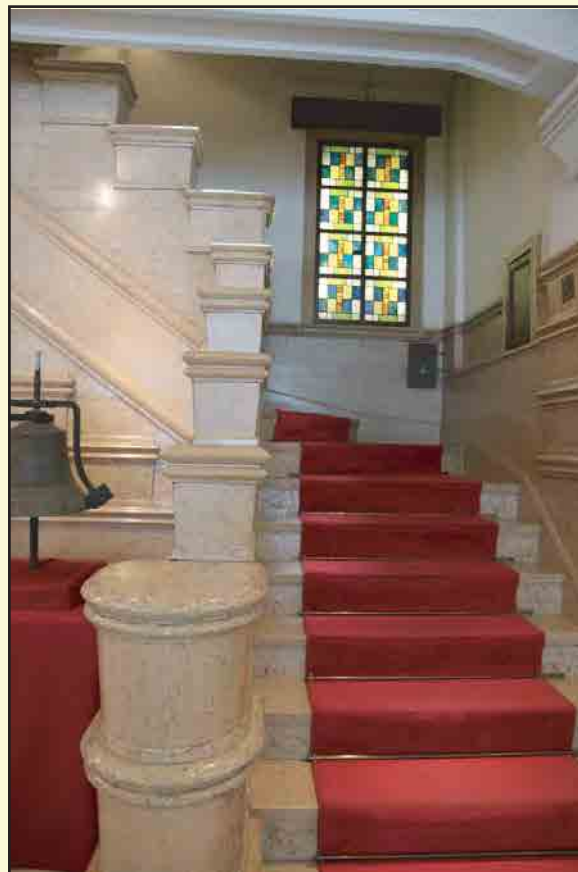
*どのステンドグラスにも高価なオパールセントグラスが多色使いで用いられ、店舗内部を明るく華やいだものとしている。

*かつて陳列窓の欄間にはめられていたステンドグラスが散逸せずに、すべて現存している意義は非常に大きい。

●建物で一番好きなところ

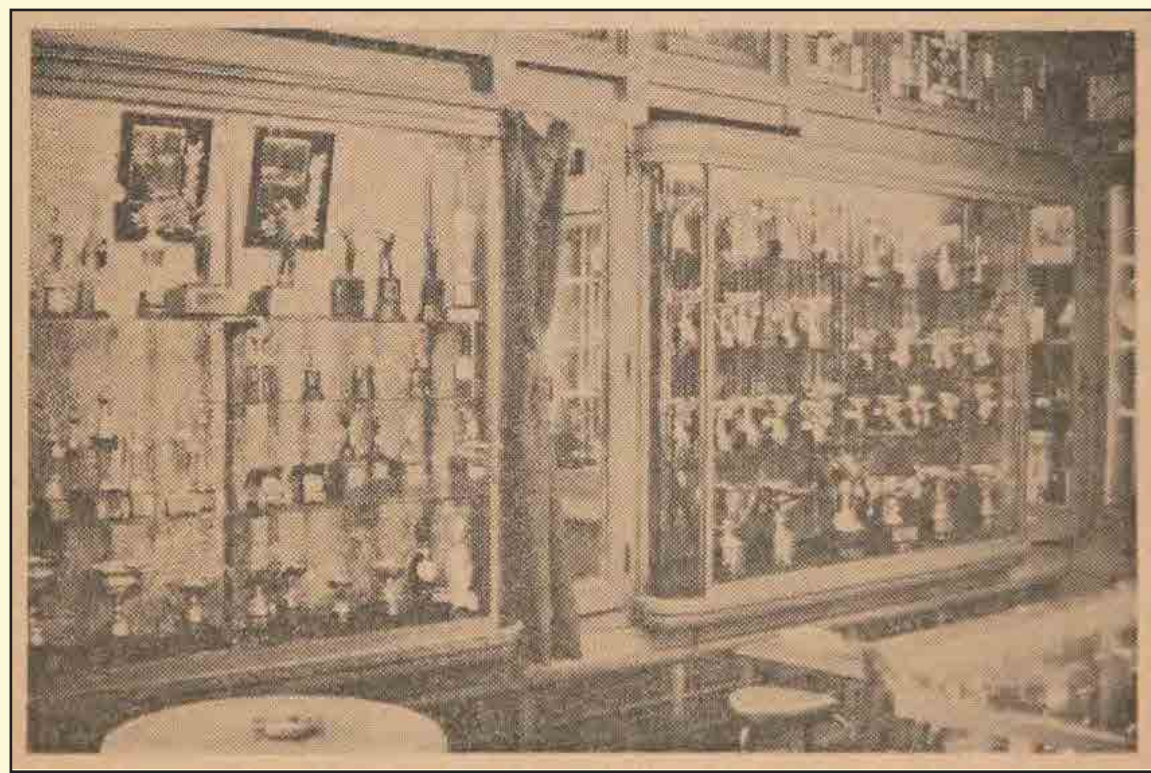
「一番」と言われると選ぶのに苦労します。時計台、東北面のテラコッタ、鷲、大理石の階段・・・。

一番をひとつ、と言われれば、1階の大理石の正面階段でしょうか。



株式会社生駒ビルディング
代表取締役 生駒伸夫氏

●ステンドグラス等について



階陳列窓を映した生駒時計店の広告写真(1968年頃)
上部にステンドグラス、下部にヒーター・グリルが見える

早い時期(戦前)から、ステンドグラスの上に板を貼り、掛時計を展示するスペースに利用していました。

平成3年の改修まで、これだけの数が悪くない状態に残っていることをあまり意識していませんでした。

●建物やステンドグラスに対する思い

改修工事後、大切に保管していたのに、知らぬ間に倉庫で移動されて斜めに立てかけられ、自重で破損させてしまったことが悔やまれます。

大阪産業大学吉田淳一先生に見て頂き、検証の上、これ以上の破損が進まないようにして頂いたことは嬉しかったのですが、ひどく怒られている気がし恥ずかしくもありました。建物はすべてに愛着があります。



昭和5年宗設計事務所
生駒時計店陳列窓詳細図に基づく、堺筋側の陳列窓詳細復元図

10. 小川香料大阪支店ビル

date

住所：
大阪市中央区北浜1-8-16

建築年：
昭和5年(1930)

設計：
本間乙彦

施工：
白陽工務店

備考：国登録有形文化財指定



history

当初は3階建てとして建築されたが、後に増築され4階建てとなった。当時は、上部階が経営者の家族や店員たちの住まいとなっており、1階部分が店舗・事務所であった。会社自体は、1893年に芳香原料商小川商店として大阪市東区(現在地?)にて創業した、現在創業約120年の老舗企業である。

現在、建物は、小川香料大阪支店の事務所として利用されている。

建物の特徴

外観の意匠は、柱や建物輪郭など全体に角に丸みがあり、各階を水平に区切るデザインが、アールデコを簡略したような、ユニークな壁面構成となっている。

左：庇や窓周りの装飾
右：階段室入口付近。柱も角が落とされ丸みを帯びている。



製作：
特定できず。設計者の本間乙彦と親交が深かったベニス工房の鶴丸梅太郎の可能性がある。

設置時期：昭和5年(建築時)

設置場所(現在)：
正面玄関横 階段室扉上部嵌め殺し窓

design & point

*ステンドグラスが取り付けられているのは一か所だけではあるが、入口回りとのトータルデザインが生かされたものとなっている。

*使用している色は青と薄黄だけで、その他は4種類の無色透明型板ガラスで構成され、すっきりとした幾何学的デザインとなっている。

*中央部分は、水平垂直の直線で構成され、中央から周囲へと広がるように波線が使われているのが特徴であり、横長の八角形がシンメトリーに表されている。

*外枠と同じ太さの鉛線が縦に3本、横に2本ずつ嵌められ、細かい図柄のガラスを太さの違う細い鉛線でつながれている。

*同時期に建設された生駒ビルの多色使いのステンドグラスとは少し趣を異にするものである。



左: 正面玄関横 階段室入口扉上部嵌め殺し窓のステンドグラス



右: 階段室内側から見たステンドグラス

*建築当初からのものではないようだが、中央玄関前の地上部分に地下階への明り取りガラスブロックが嵌められている。古い四角い形のもので、三列に並んでいる。



小川香料ビル中央玄関前に埋め込まれた明り取りのガラスブロック

11. 日本基督教団 浪花教会

date

住所: 大阪府中央区高麗橋2-6-2
建築年: 昭和5年(1930)
設計: 竹中工務店(ウィリアム・メレル・ヴォーリス設計指導)
施工: 竹中工務店



history

昭和初期の三休橋筋の拡張工事により現在の建物が建てられる。

近江兄弟社の創立者で、アメリカ人建築家のウィリアム・メレル・ヴォーリスによる設計指導に基づき、竹中工務店が設計施工した。

浪花教会は、1877年に設立されたプロテスタント(新教)の教会のひとつで、現在は1941年に合同した「日本基督教団」に属しており、現在の建物は、礼拝の場として開放されている。

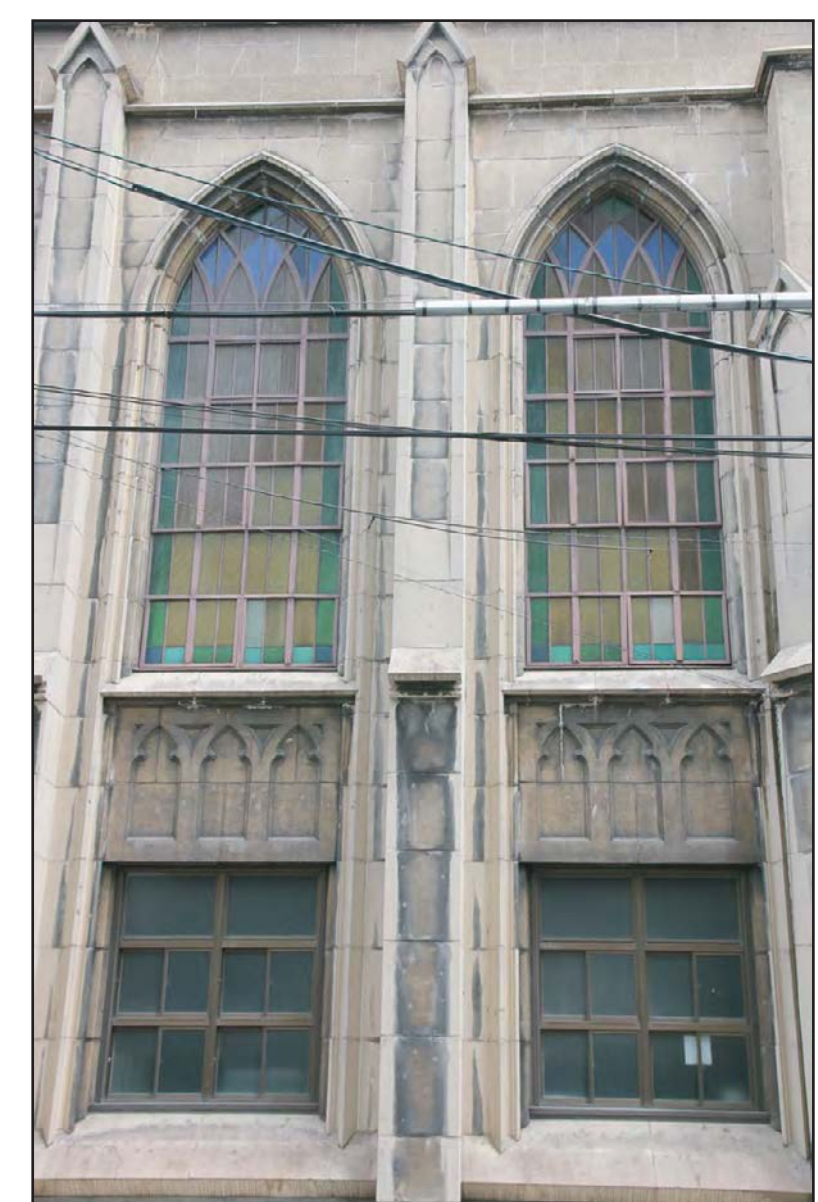
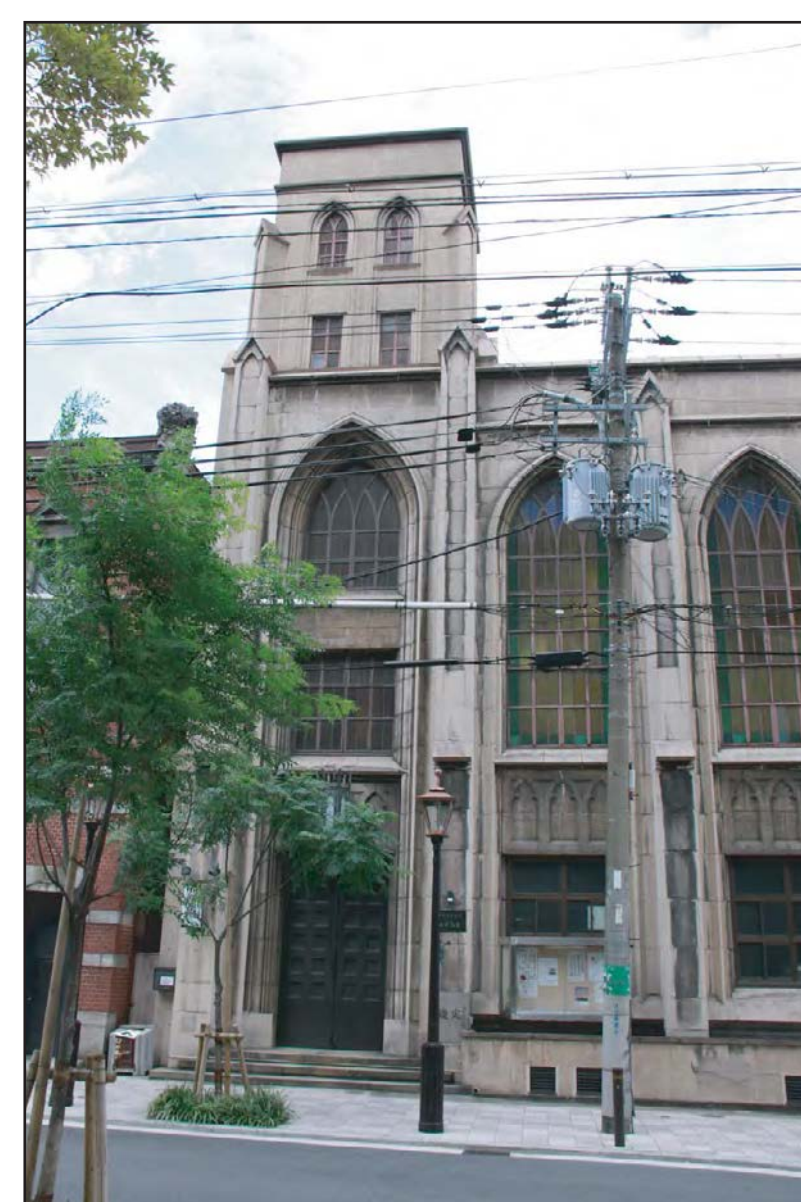
また、礼拝堂は地域のイベント時に、講演会場等としての広く公開もされている。

建物の特徴

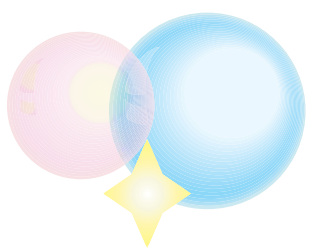
ネオゴシック様式の建物で、2階に礼拝堂があり、入り口の上には塔屋が付く。

礼拝堂の吹き抜き空間の西・東面に大きな尖塔アーチ窓が3面ずつ配され、これらの窓にはめられている色型板ガラスが建物の特徴となっている。

ステンドグラスのある尖頭アーチ型の長窓が連続し、彫が深く垂直性の強調されたデザインである。

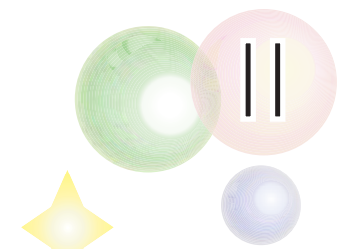


左 : 三休橋筋西側歩道から見た浪花教会。入り口上部に尖塔アーチ型の窓のついた塔屋がみえる
右 : 1,2階の開口部とその周辺。ネオゴシック様式の意匠。2階礼拝堂空間の窓にステンドグラスがはまっている



date

stained glass



製作：製作者、製作所不明

設置時期：昭和5年(建築時)

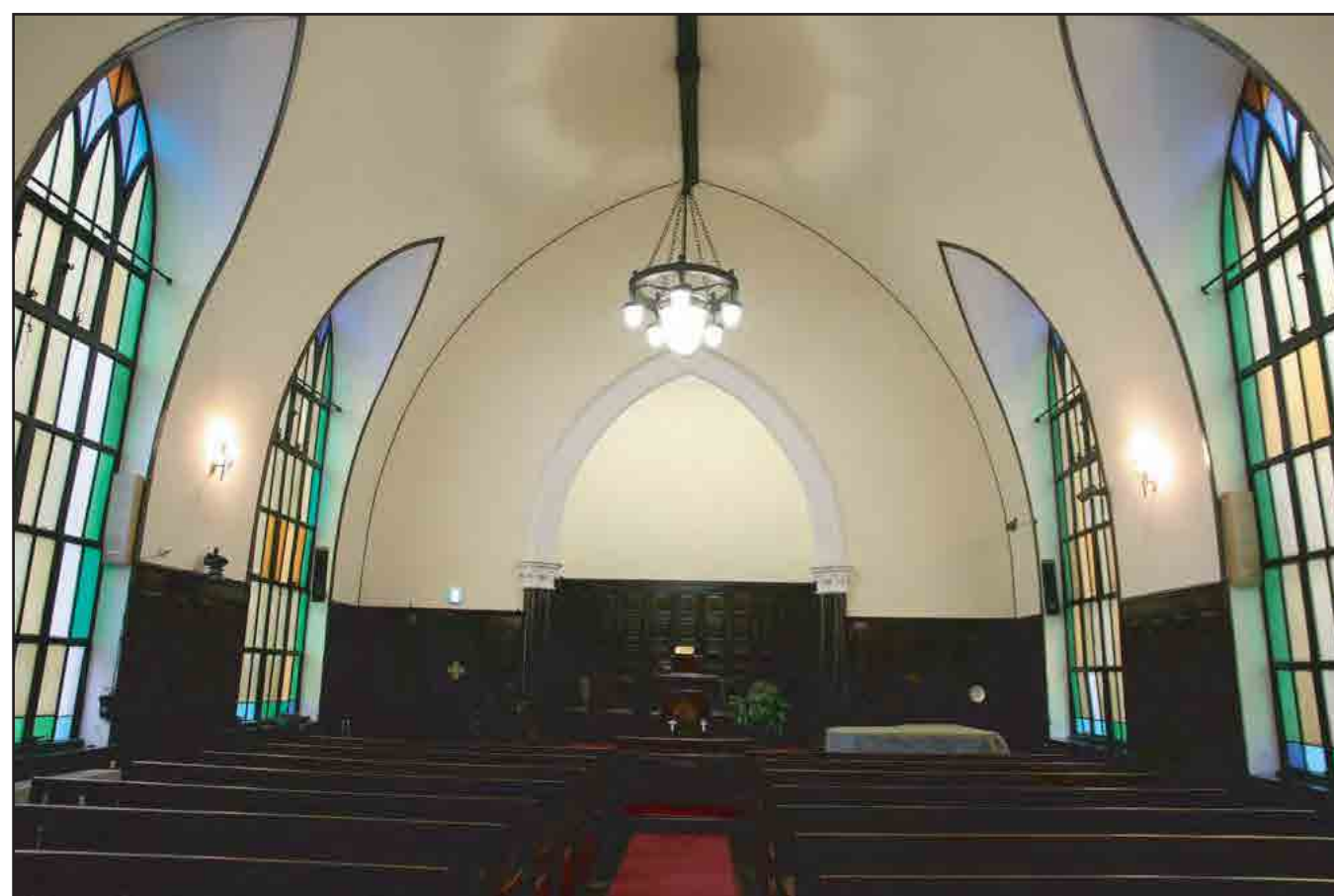
設置場所(現在)：2階礼拝堂東壁3面、西壁3面の尖塔アーチ窓

design & point

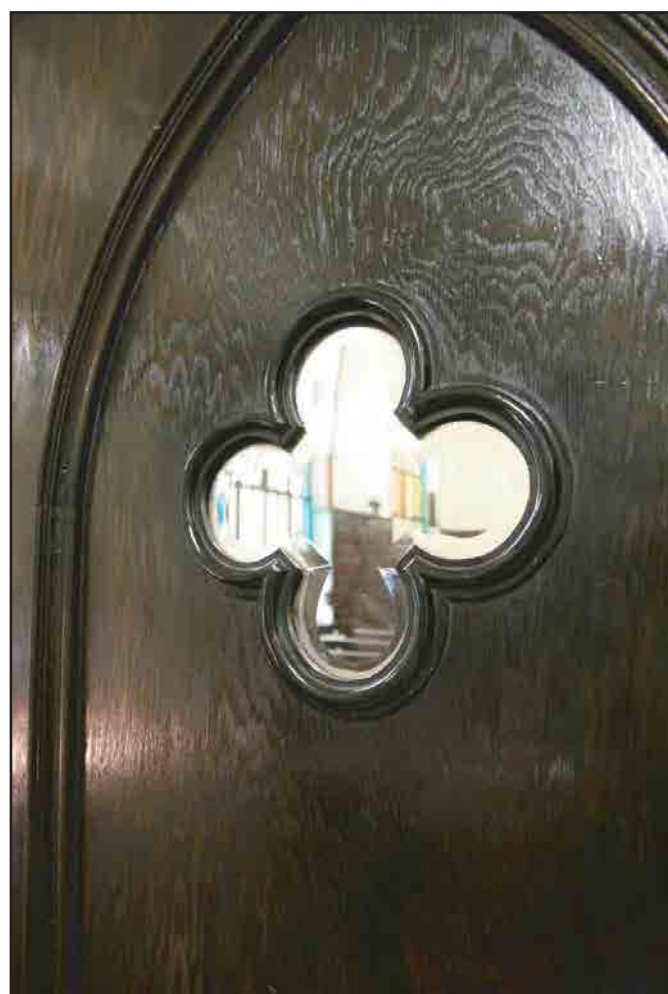
*2階礼拝堂には、東・西壁に各3面尖塔アーチ窓があり、各窓は縦長の大きな尖塔アーチの中にさらに4つの細長い尖塔アーチが入った形をとる。

ヨーロッパの教会にみられるような聖書の物語を描いたものでなく、幾何学的な模様である。どの窓も尖塔部分には、オリジナルのガラスが残っている。

*礼拝堂は、窓から自然光を取り入れるため、窓のほとんどの部分には無色透明型板ガラス(外側からの汚れで現在薄茶色く見える部分がある。)がはめられ、光があふれる開放的な祈りの空間となっている。



2階礼拝堂内部講壇側
東西両壁面に3面のステンドグラス入り尖塔アーチ窓がおさまる



左：礼拝堂入口に一番近い西壁ステンドグラス窓。オリジナルの板ガラスが多く残る。
右：礼拝堂入口扉の窓。

*使われている板ガラスはすべて、透明型板ガラスで色数も3色(青・緑・オレンジ)と限られており、ステンドグラスでよく用いられる華やかなオパールセントグラスは使われていない。

*ダイヤ型板ガラスは、この教会が建設された当時にはまだ国産化されておらず、輸入品である。

国産化されるのは昭和10年頃からであるため、補修部分に国産のダイヤ型板ガラスが使われている可能性がある。

●建物で一番好きなところ

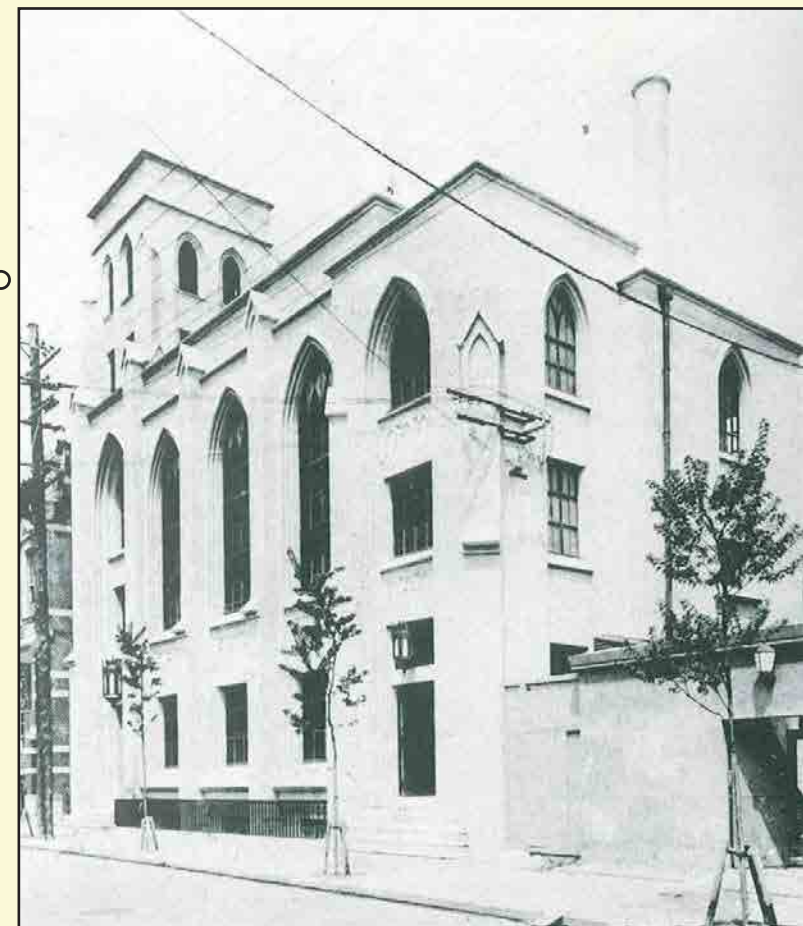
建物全体です。



●ステンドグラス等について

三休橋筋の拡張工事のために、教会の敷地が狭くなり、今の建物が建てられ、その時板ガラスが入りました。

(1930年)



1930年の三休橋筋拡張後の教会の様子
(出典:「近代大阪の建築」)

●建物やステンドグラスに対する思い

教会の中心である礼拝堂にやわらかな光を与えてくれる板ガラスを誇りに思っています。



階礼拝堂入口方向を見る

12. 大阪ガスビルディング（南館）

date

住所 : 大阪府中央区平野町4-1-2
建築年: 昭和8年(1933)
設計 : 安井武雄(安井建築設計事務所) 施工: 大林組
備考 : 国登録有形文化財指定



history

大阪ガスビルは、南館と北館の2棟からなるビルで、南館は昭和8年、北館は昭和41年に完成した。南館建設は、当時の大阪市長からの申し入れをきっかけに、当時中之島にあった社屋を現在の平野町4丁目へ移転することとなり、実施されたものである。ガスビル竣工時、御堂筋はまだ拡幅工事中であり、昭和11年にほぼ全区間が竣工した。

当初、地下1階から2階までがガス機器のショールームであったほか、2層吹抜けで600名を収用する講演場、理・美容室、喫茶室、ガス料理実習室、和・洋食堂等の用途をもち、社屋としてだけでなく、一種の商業ビルに近い複合用途の建物であった。

北側の新館は昭和41年に、南館との調和を考えて、同じ色のタイルを張った手法で増築された。

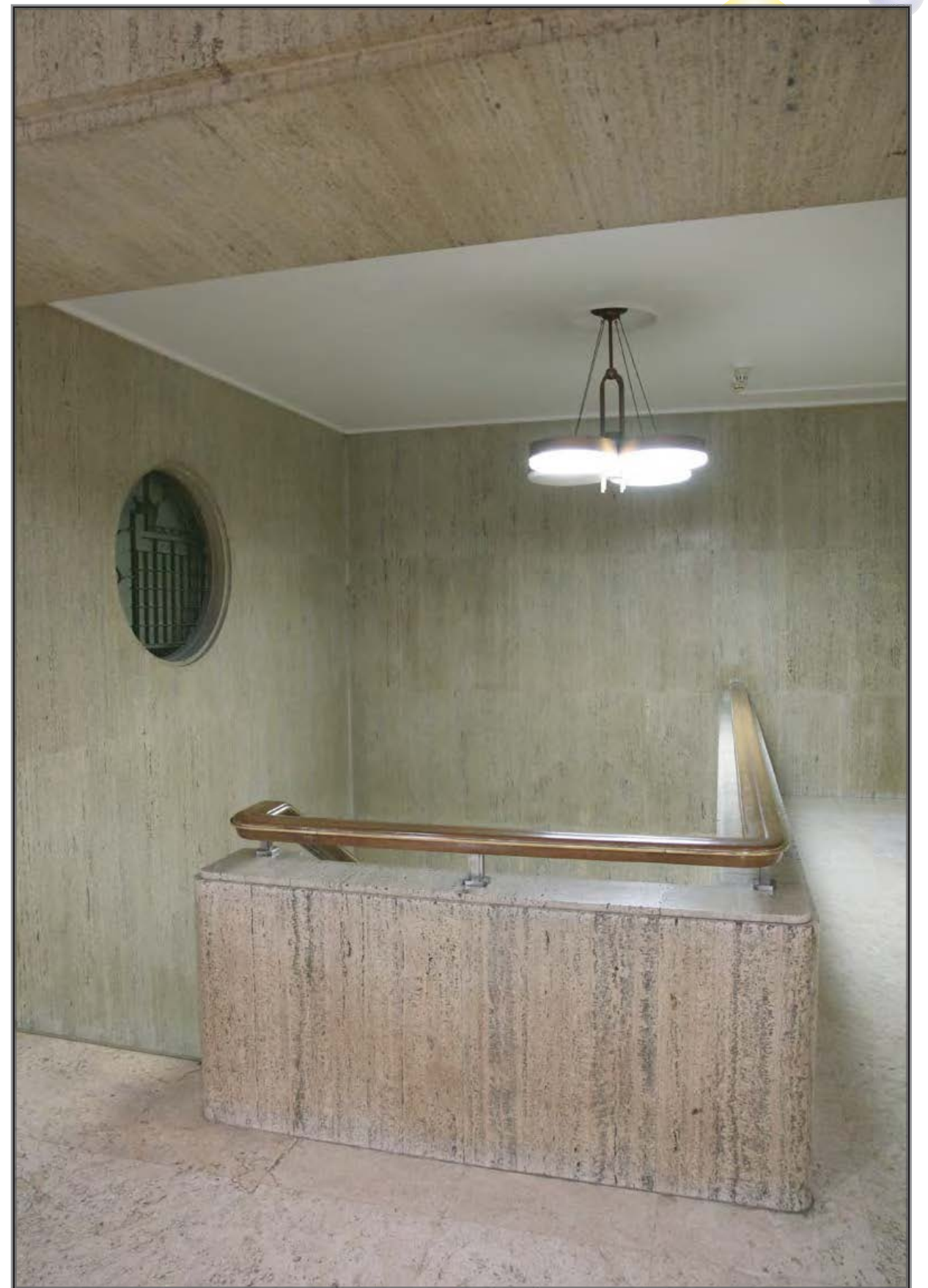
現在、主に大阪ガス株式会社の本社社屋として利用されているが、1階はショールーム「フラムテラス」として、喫茶店やクッキング・スタジオ、休憩等に利用できるスペース等があり、一般の人が自由に出入りができるようになっている。

また1階外部の軒下部分は、イベント・休憩空間として活用されている他、最上階8階には竣工と同時に開業した「ガスビル食堂」が現在も営業を続けている。

建物の特徴

1,2階の外壁には勿来(なこそ)産黒御影石と稲田産白御影石が貼られている。3階以上は白黄色半磁タイル、軒先は鼠磁タイル、2階の連続出窓のサッシには当時まだ珍しかったドイツ製のステンレススチールが使われている。アイボリーのタイル張りの壁面を、各層ごとに水平に区切る黒色の庇が特徴となっている。

内部は、エレベーターホールの一部(地下1階～4階)が竣工時の面影を残しており、壁にイタリア産トラバーチン(大理石)、床には沖縄産大理石が敷かれている。



竣工当時のガスビル



壁面にトラバーチン、床に沖縄産大理石を張った2階階段室
竣工当時の姿を残す



現在の外壁の様子

製作：製作者、製作所不明

設置時期：昭和8年

design & point

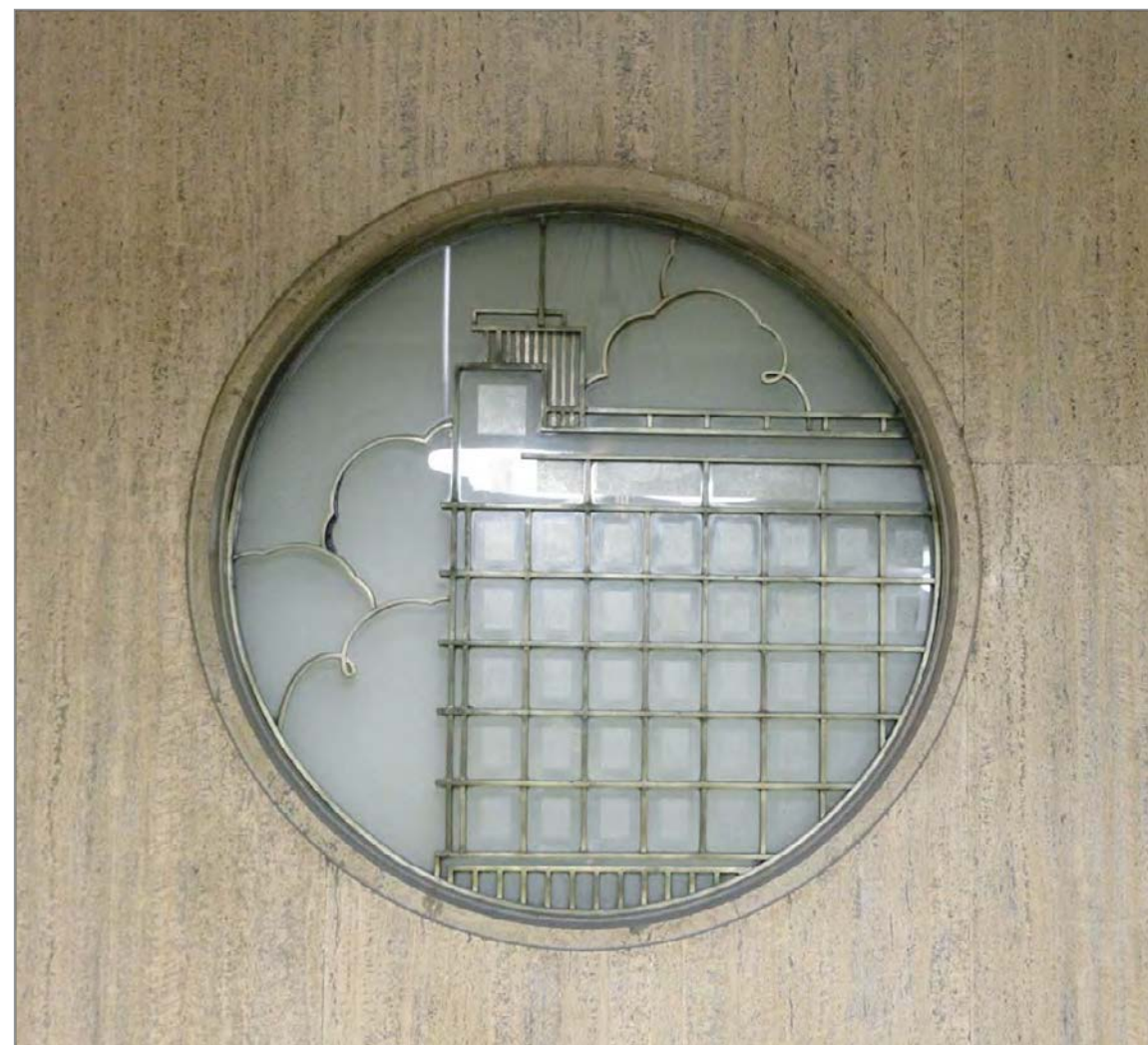
*2階階段室側壁丸窓

2階階段室側壁には、大きな丸窓が開けられていて、かつてのこのビルを北側から見た外観と雲が、シルバーブロンズの角線によって面格子状に表わされ、四角いビルの窓部分だけがスリガラスにエッチングされている。(1966年に北館が増築されたため、現在は見る事ができない。)

線で表現されたビルの幾何学的な形と円弧を重ねた雲によって、アール・デコのデザインが感じられる。

2階には、かつてホールや喫茶室が設けられていたためか、人目に触れる機会の多い階段室のみに丸窓が付けられていたようである。

現在は、丸窓の裏に壁が取り付けられ、光は透過することができない状況である。



2階階段室の丸窓



上段 左:8階食堂のウォールランプ(右向き房)
右:8階食堂のウォールランプ(左向き房)

下段 左:8階食堂配膳室目隠し壁のエッチンググラス窓
(鈴蘭と蝶)
右:左と同様(鈴蘭のみ)

*8階食堂のエッチンググラス窓ほか

8階食堂の宴会室に面した壁には、円形に切られたガラス板に右向き房の鈴蘭と左向き房の鈴蘭に蝶をエッチンググラスで表わしたウォールランプが2個取り付けられている。

厨房配膳室の目隠し壁には、ウォールランプと同じ図柄・大きさのエッチンググラスの明り取り丸窓が2個並んであけられている。

その他に、3個の円に鈴蘭の図柄だけ透明に残したスリガラス板でできた衝立(ついたて)が残されている。

鈴蘭は、ガス灯のガラスホヤ(火を覆うガラス製の筒)に花の形が似ているところから、創業当初から大阪ガスの意匠として使われてきたようで、グラス等の食器の文様としてもあしらわれている。

owner`s comment:建物に対する思い

ポルティコでのバザーや、フラムテラスでの御堂筋・平野町などのまちづくりのサロン、コンサートなど、弊社が主催する交流催しなど行い、船場・御堂筋の活性化・賑わいづくりに活かしています。
また、ガスビル食堂の料理や雰囲気も好評を頂いています。



丸に鈴蘭を表わしたスリガラスの衝立

1 3 . ワセダビル（旧早稲田屋本社ビル） |



date

住所：
大阪府中央区本町2-1-2

建築年：
昭和10年（1935）

設計・施工：
不明

history

建築当初はシャツのメーカーであった早稲田屋(現在はトミヤアパレルに吸収合併)の本店ビルとして建てられた。

現在建物の低層階には喫茶店「CAFE DI ESPRESSO 珈琲館」が入り、上層階は事務所として利用されている。

建物の特徴

社名である早稲田の名に因んでか、早稲田大学大隈記念講堂(1927)の塔屋を真似たネオゴシック様式の塔屋が付けられている。

塔屋は最近まで看板で隠れていたが、看板が撤去され建築時の白い塔屋が姿を見せえている。

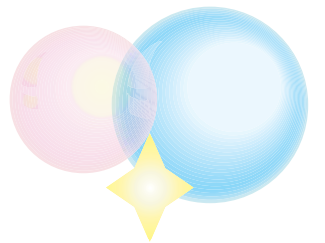
塔屋の真下、堺筋に面した東壁面に1箇所だけ他の開口部と形の異なる尖塔アーチ形の嵌め殺し窓があり、白いシャツを着た男の図柄が幾何学的な構成のステンドグラスがはめられている。

窓の形は塔屋のデザインに合わせたネオゴシック様式である。



左:早稲田大学大隈記念講堂(1927年) ネオゴシックの塔屋部分がよく似ている
右:堺筋に面した塔屋部分とその下に位置するステンドグラスの入った尖塔アーチ窓





date

stained glass



製作：ベニス工房 羽瀬寛と推定

設置時期：昭和10年(建築時)

設置場所(現在)：5階から塔屋に上がる階段踊り場の明り取り窓(外から見るとビル東側)

design & point

*白いシャツを着た男の図柄が幾何学的な構成でデザインされたステンドグラス。この図柄が採用されていることは、シャツのメーカーの社屋であったことの証と考えられる。
とりわけ白色ガラスと乳白色オパールセントグラスでできた白いシャツが、遠くからでも目を引き、人物の腕と脚によってできたS字が大きく画面を占めるのが特徴。

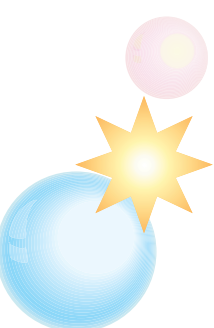
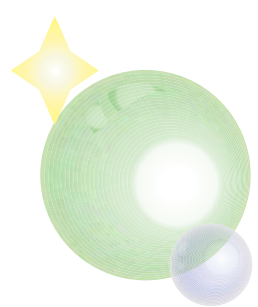
*ネオゴシックの尖塔アーチ形窓に比べ、中にはめられたステンドグラスは、直線と弧線を駆使して幾何学的に構成された人物によって、キュビスムのデザインを彷彿とさせている。



堺筋側から見たステンドグラス

*多種の色板ガラスを用いて、多色使いの配色となっていることも特徴の一つである。

*ステンドグラスのパネルは、外側から補強の丸棒鉄線が2本入れられていて、1本は中央部に平行に、下半分には図柄に合わせて斜めに鉄線が取り付けられている。



●建物で一番好きなところ

ビル屋上の塔屋とステンドグラス。



●ステンドグラス等について

当ビルは、かつてワイシャツメーカー（早稲田屋）の本社ビルでしたので、シャツを着た紳士の図がステンドグラスにデザインされていると伝えられています。

●建物やステンドグラスに対する思い

ビルは1～3階はカフェ、屋上には大きな塔屋があって、そのすぐ下のステンドグラスの窓は見逃しがちですが、ひとたびステンドグラスの存在を知るとビル前を通るとついつい見てしまいます。

人にも教えたくくなります。ビル前の道路の反対側から見るができます。

左 : 1階出入り口に掲げられているビル名のプレート
右 : 堺筋東沿いの歩道から見たワセダビルの全景
ステンドグラスと塔屋が建物のアクセントとなっている



14. 大阪証券取引所ビル (旧大阪証券ビル市場館)

date

住所：大阪市中区北浜1-8-16
建築年：昭和10年(1935)
設計：長谷部竹腰設計事務所(基本設計：高橋栄治)
施工：大林組



history

現在、大阪証券取引所ビルの建つ場所は、江戸中期以降金相場会所となっていたところで、明治11年(1878)に五代友厚らが発起人となり、大阪証券取引所の前身である「大阪株式取引所」ができ、昭和10年に市場館が竣工する。

終戦に伴い立会が停止され、取引所市場は以降1949年(昭和24年)5月まで閉鎖されるが、同年「大阪証券取引所」が設立され現在に至る。

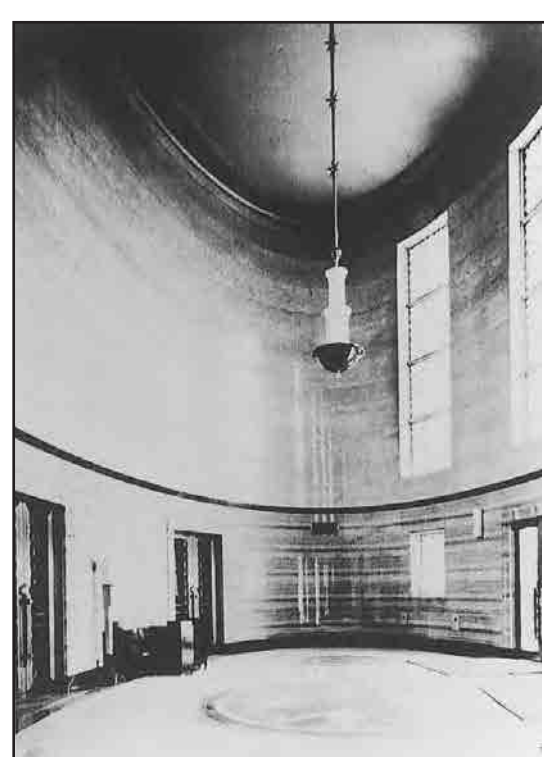
平成16年に市場館ホール部分を保存する形で、今のビルに建替えられた。

ホール部分は、現在アトリウムとして誰でも出入りできる空間となっている。来訪者の憩いの場や地域のイベント等として利用されている。

建物の特徴



入口部分の無装飾で重厚な6本の列柱が印象的である。
外装全体に、花崗岩が貼られ、縦長の開口部がアクセントとなっている。外観は全体として装飾はなくシンプル。
建物は外からは正円に見えるが、中に入るとホールは楕円で小判の形を模している。



外観と対照的に、ホールの内部意匠はステンドグラスを始め、アール・デコを基調とした華やかなデザインが用いられている。

左：現在の入口付近の外観
中：竣工当時の玄関ホール(新築記念絵葉書より)
右：現在の玄関ホール

製作：大阪エッチンググラス社(生田徳次)と推定

設置時期：昭和10年(建築時)

設置場所(現在)：

玄関入口上部の長大窓 / 玄関入り口両脇の小窓

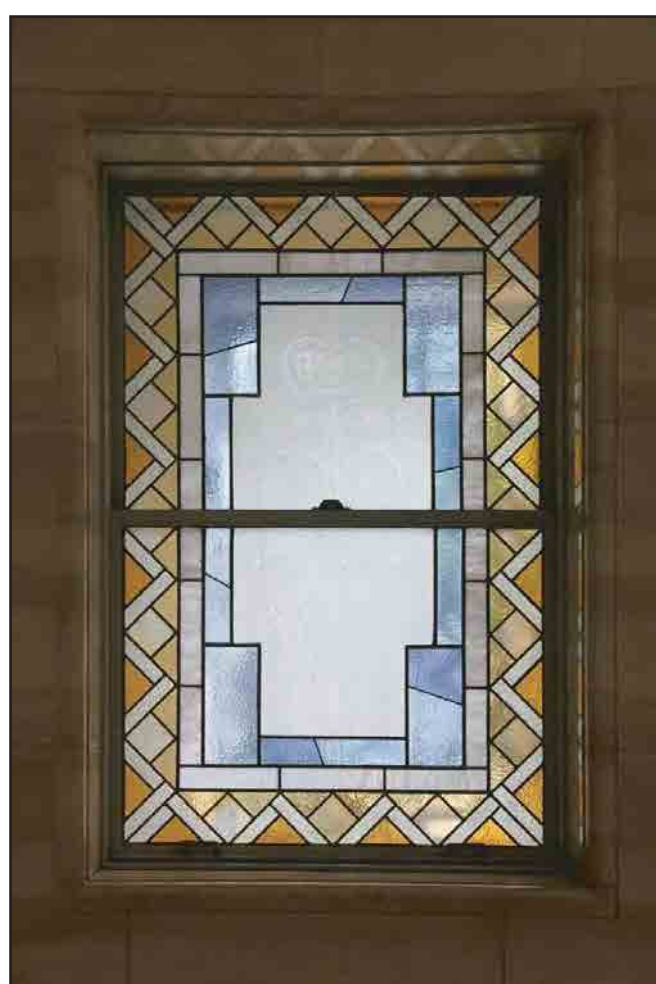
design & point

*デザインは花瓶と植物をモチーフとした、アールデコ様式。

*無色透明の板ガラスに文様を磨り出したエッチンググラスと色板ガラスを組み合わせでステンドグラスにしたところに、大きな特徴がある。

*すべて直線で構成され、H型鉛線だけでそれぞれの色板ガラスをつないでいる。

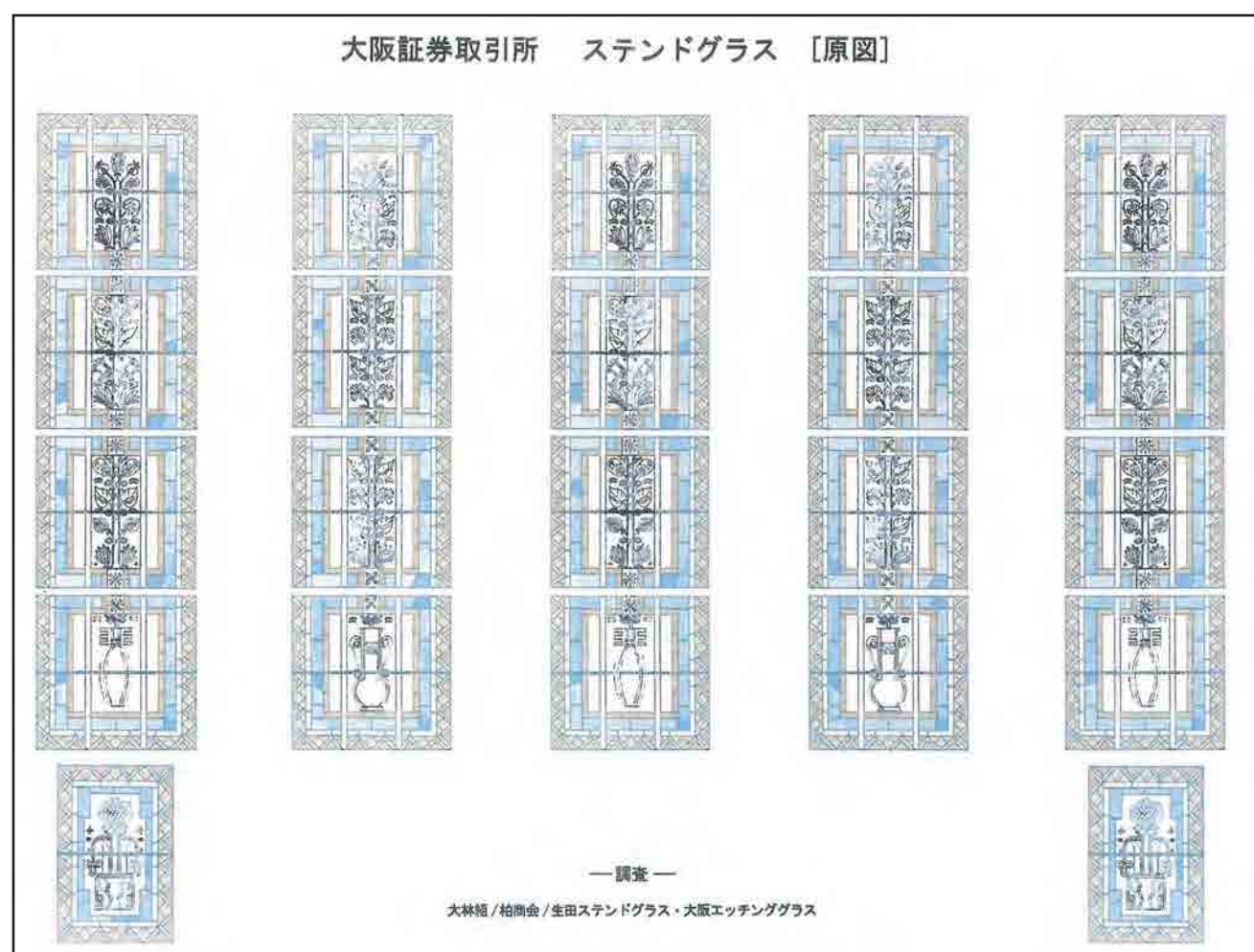
*全体の色調はオレンジと青色を基調に、ややくすんだ落ち着いたものとなっている。



左：玄関入り口上部の長大窓
中：玄関入り口両脇の小窓
右上：玄関入り口両脇の小窓の細部
右下：玄関ホール換気口グリル

*ステンドグラスのデザインをはじめ、窓外部の金属製面格子や玄関ホール内の換気口グリルなどにも、アール・デコのデザインが取り入れられ、全体を統一した優れたデザイン・センスが感じられる。

図：ステンドグラス原図
(調査:大林組・柏商会・生田ステンドグラス・大阪エッチンググラス/資料提供:平和不動産㈱)



製作：大阪エッチンググラス社(生田徳次)と推定

設置時期：昭和10年(建築時)

設置場所(現在)：

玄関入口上部の長大窓 / 玄関入り口両脇の小窓

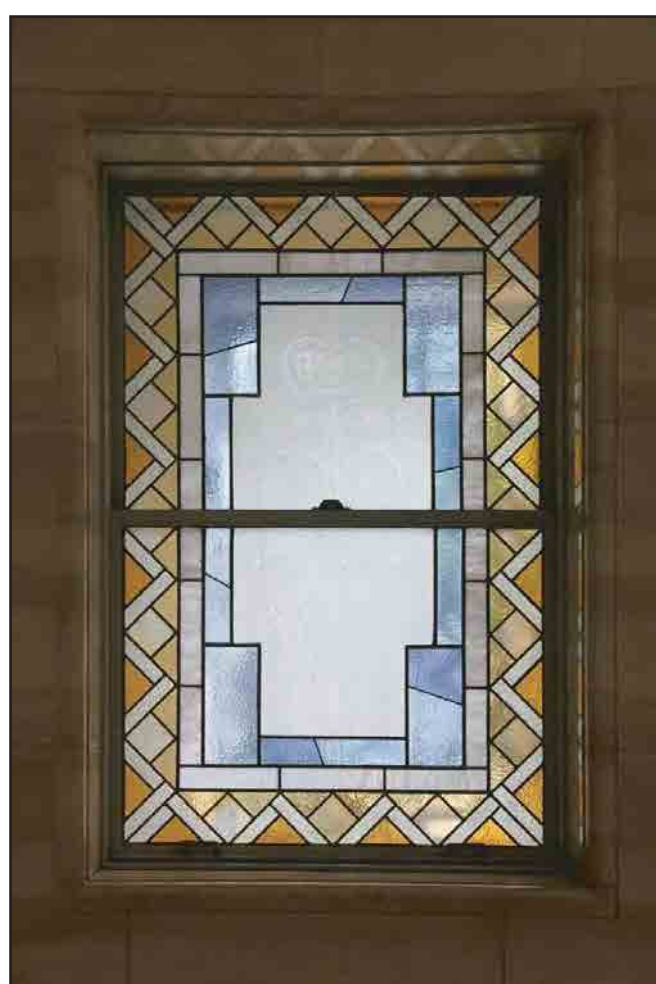
design & point

*デザインは花瓶と植物をモチーフとした、アールデコ様式。

*無色透明の板ガラスに文様を磨り出したエッチンググラスと色板ガラスを組み合わせでステンドグラスにしたところに、大きな特徴がある。

*すべて直線で構成され、H型鉛線だけでそれぞれの色板ガラスをつないでいる。

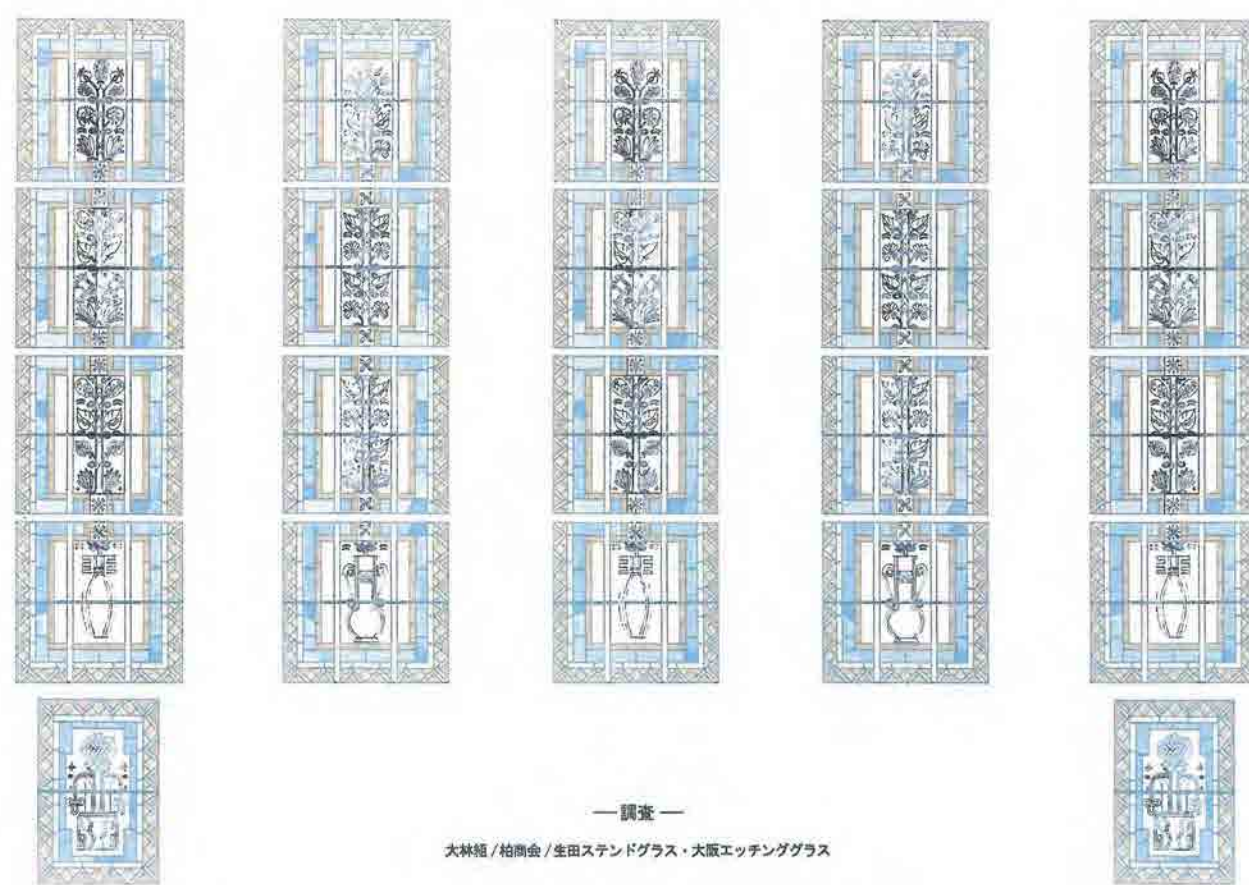
*全体の色調はオレンジと青色を基調に、ややくすんだ落ち着いたものとなっている。



左：玄関入り口上部の長大窓
中：玄関入り口両脇の小窓
右上：玄関入り口両脇の小窓の細部
右下：玄関ホール換気口グリル

*ステンドグラスのデザインをはじめ、窓外部の金属製面格子や玄関ホール内の換気口グリルなどにも、アール・デコのデザインが取り入れられ、全体を統一した優れたデザイン・センスが感じられる。

大阪証券取引所 ステンドグラス [原図]



図：ステンドグラス原図
(調査:大林組・柏商会・生田ステンドグラス・大阪エッチンググラス/資料提供:平和不動産㈱)